

コミュニティヘルスインターンシップ（CHI） （地域医療早期体験実習）

科目責任者 千 種 雄 一
学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

現在、医学教育ではプロフェッショナリズムの醸成が最重要課題のひとつになっている。医師のプロフェッショナルリズムとは「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、患者中心の医療を実践しながら、医師としての（みち）を究めていく」ものであると医学教育モデル・コア・カリキュラムに明記されている。これが、医師として求められる基本的な資質・能力の第一に挙げられる。

本実習は最初のプロフェッショナリズム教育の場であり、本学病院・社会福祉施設・地域病院・特別支援学校などの現場を体験する事を目的としている。

病気や障害あるいは高齢になって生活を送っている方々とその家族に触れ、相手の心を理解し信頼関係を築くことが大切である。本実習の経験が他者を思いやる心を育み、人間性豊かな医師への第一歩になることを願うものである。

II. 担当教員

医学部担当教員

看護学部担当教員

医学部CHI委員

看護学部ふれあい実習担当教員

各実習施設指導者

III. 一般学習目標

- 1) 医療の原点を理解し、技術だけの医療従事者ではなく人間性豊かな社会性のある医師としての心構えを身につける。
- 2) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築き、患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。
- 3) 保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。
- 4) 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健・医療・福祉・介護の各分野間および多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- 5) 患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であることを認識し、そのいずれにも柔軟に対応できる。

IV. 学修の到達目標

- 1) 将来医師として、的確な判断・良好なコミュニケーションの重要性を学ぶ。
- 2) 医療機関、福祉施設、特別支援学校の1日の流れを理解し、積極的に行動して学ぶ。
- 3) 積極的なコミュニケーションを行い、信頼関係の構築について学ぶ。
- 4) 積極的に実習を行い、常に医療者としての視点を忘れないようにする。
- 5) 社会における適切な礼儀、マナー、言葉遣い、身だしなみ、および時間厳守に努める。
- 6) 医学部の学生はすでに医療者の一員であることを自覚して、病院内では患者第一に考え、責任ある行動をとる。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	6	9	金	6	コミュニティヘルスインターシップ ガイダンス	千種雄一 上田理恵 野畑友恵 医学部引率教員 看護学部引率教員	
2	7	3	月	終日	全体オリエンテーション・ガイダンス 学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班）	千種雄一 上田理恵 各担当教員 医学部引率教員 看護学部引率教員	3, 4
3		4	火	終日	学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班）	千種雄一 上田理恵 各担当教員 医学部引率教員 看護学部引率教員	4
4		5	水	終日	全体オリエンテーション・ガイダンス 学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班）	千種雄一 上田理恵 各担当教員 医学部引率教員 看護学部引率教員	3, 4
5		6	木	終日	学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班）	千種雄一 上田理恵 各担当教員 医学部引率教員 看護学部引率教員	4
6		7	金	終日	グループ別討議（医学部・看護学部学生混成班） 実習報告書作成（医学部・看護学部学生混成班） 全体発表会（医学部・看護学部全学生）	野畑友恵 千種雄一 上田理恵 医学部引率教員 看護学部引率教員	2, 3, 5

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）（成績評価の方法と・基準）

- 1) 各実習レポート・実習態度，各班の実習報告書その他により評価を行う。
 - 2) 実習を欠席した者と60点未満の者については追・再実習を行うことがある。
- ※評価については後日，オリエンテーション等で説明をする。

VII. 教科書・参考書・AV資料

オリエンテーション時（または必要に応じて）資料を配布する。

VIII. 質問への対応方法

科目責任者：千種雄一（ychigusa@dokkyomed.ac.jp / PHS7086）または教務課が窓口になり随時対応する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験は実施しない。

レポート（実習前），レポート（実習後），レポート（報告書用）は引率教員による添削後に，学生に返却するので添削内容を参照して再提出する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前：レポート（実習前）

事後：レポート（実習後）

レポート（報告書用）

合計：事前学習 2 時間，事後学習 3 時間

XII. コアカリ記号・番号

A-1-2) 患者中心の視点

A-1-3) 医師としての責務と裁量権

A-2-1) 課題探求・解決能力

- A-2-2) 学修の在り方
- A-4-1) コミュニケーション
- A-4-2) 患者と医師の関係
- A-5-1) 患者中心のチーム医療
- A-7-1) 地域医療への貢献
- B-4-1) 医師に求められる社会性